



町の魅力どう発信

「明大生と」とっとりグランマ

食テーマに交流

「食」をテーマに地域活性化策について研究している明治大学商

とっとりグランマ倶楽部のメンバーと一緒に地元食材を使った料理作りに取り組む明治大学の学生ら。25日、鳥取市の「輝なんせ鳥取」

学部の学生らが25日、鳥取市を訪問。明大と鳥取県が連携して開講している社会人講座「とっとりグランマ倶楽部」の女性らと、地元の特産品や農産物を使った料理を試食するなどして交流を深めた。

学生は明大の水野勝之教授のゼミで学ぶ3年生5人。同ゼミは本年度、北栄町の特産を生かした菓子や食品などを通して、町の魅力をどう全国に発信するか研究に取り組んでおり、たびたび現地調査のため来県している。

この日は、とっとりグランマ倶楽部の1、2期生13人が交流に参加。大学生たちは「グラナマ倶楽部のメンバーが考案した鳥取砂丘特産のラッキョウを使った天ぷらやチャーハン、サラダのほか、米粉ピザや梨ゼリーなど17品を一緒に調理し、レシピや調理方法、特徴などを解説しながら全員で試食した。学生らは鳥取の食の素晴らしさをたえ、

「B級グルメのイベントに参加してみようか」「アイデア料理のレシピ集を発行したい」など、上手な情報発信の仕方について意見交換した。